

西村泰光（衛生学）准教授

李順姫（衛生学）助教

日本衛生学会奨励賞・日本衛生学会学術総会最優秀演題賞を受賞

衛生学西村泰光准教授に対し日本衛生学会から奨励賞が授賞され、第82回日本衛生学会学術総会において授賞式が執り行われた。奨励賞は、推薦により過去の業績から、衛生学に関する独創的研究で将来の発展を期待しうるものに授賞される。また、総会で発表された演題の中から、李助教に最優秀演題賞が授賞された。



西村准教授は、これまで取り組まれた「アスベスト関連疾患に関わる肺胞マクロファージとNK細胞の機能変化」についての研究内容が評価された。アスベスト（石綿）曝露により移動能を持つ肺胞マクロファージ（AM）がアポトーシスもなく上皮系・間葉系細胞も居ない環境で高いTGF- β 産生能と長期生存を獲得する事実は、AMの初期肺線維化への寄与をより印

象づけ、他方、石綿曝露培養と悪性中皮腫（MM）患者のNK細胞に共通してNKp46発現低下を伴う細胞傷害性低下が明らかになったことは、石綿曝露が抗腫瘍免疫機能に抑制的影響を持つことを示し、MM発症に関わることを示唆し、NKp46低下は石綿曝露者の免疫機能低下指標として、X線・CTによる既存の診断法とともに、MM早期発見診断に寄与する可能性を示した。



李助教のポスター演題は「石綿長期曝露T細胞株MT-2細胞における細胞周期変化の解析」であり、Treg様T細胞増殖抑制活性を有するHTLV-1不死化T細胞株MT-2に、3種の石綿繊維（クリソタイルAおよびB、クロシドライト）を低濃度で長期曝露した細胞株を樹立しマイクロアレイ解析を行った結果、石綿はTregの数を増やすことで、免疫抑制能を高め、抗腫瘍免疫の減弱を引き起こすことが示唆された。

この度の受賞により、本学の研究レベルの高さを内外へ示すことができた。また、両名の研究内容が更に発展し、臨床へ展開されることが期待される。

